

テスト設計コンテスト OPEN クラス - ア

※全体でA4縦1ページに収まるように記述してください。

地域名

北海道

チーム ID

S260718001

チーム名

ミックスベジタブル

チーム紹介

テスコン参加言い出しっぺのリーダーのもとに、同じ会社の興味津々なメンバーが一堂に会してできた即席のインスタントチームです。

所属も部署も拠点も異なりますが、設計の上達に対する熱い気持ちは皆同じです。

全員初参加ではありますが、限られた時間を精一杯楽しみながら、まずは予選突破を目指します！

コンセプト

初心者でも取り組むことができる、わかりやすい設計！

をコンセプトに設計に取り組みました。

工夫点

①専門的な用語を日常的に使用する言葉に変換して記載

動物園の職務従事者が利害関係者(=ステークホルダー)やテスターとなることを想定し、QA やエンジニアには共通の認識である専門用語を、一般的に浸透している言葉に変換することで、成果物の伝わりやすさを向上させることを目指しました。

一般的に使われていない専門用語について、どのように変換すれば伝わりやすいかを全員で合意するまで話し合い、「QA用語変換シート」を作成しました。

②優先度をつけて、カバレッジを満たしつつコンパクトな設計

316 項目の機能を洗い出し、要件(A~J)に優先度を設定しました。

特に「予約→発券→入場の一貫性(A)」「時間在庫の整合性(B)」「変更による影響の回避(J)」を重視し、テスト方針を明文化しました。

テストタイプを「機能」「非機能」「変更関連」に分類し、設計書も「購入」「発券」「入場」「共通機能」に分けて整理し、さらにフローチャートやシーケンス図で動作や連携を可視化し、複雑な組み合わせはパターン表で管理しました。

これらを踏まえ、優先度欄付きのリグレッションテスト設計書と新規機能の設計書を作成しました。

③変数に対応できる使いまわしが可能なリグレッションテストの設計

将来的にリグレッションテストを使い回せる設計書を作成するため、変数が発生する箇所をシートに集約し、その値を変更すると項目書全体の該当箇所が自動的に変化するような関数を用いた設計に挑戦しました。